

女子児童の体力特性と運動および体育授業に対する嫌悪感の関連

濱口あずさ¹⁾, 春日晃章²⁾, 南輝良々¹⁾, 後藤千穂¹⁾, 古田真太郎¹⁾

Azusa Hamaguchi, Kosho Kasuga, Kirara Minami, Chiho Goto, Shintaro Furuta

Relationship between physical fitness characteristics of girls and disgust for exercise and physical education

1) 岐阜大学大学院教育学研究科

Graduate School of Education, Gifu University

2) 岐阜大学教育学部

Faculty of Education, Gifu University

キーワード：女子児童, 嫌悪感, 体力特性

Keywords : girls, disgust, physical fitness characteristics

I 諸言

近年, わが国において子どもの体力低下や運動離れが問題視されている。全国体力・運動能力, 運動習慣等調査結果(スポーツ庁, 2017)によると, 現代の子どもの体力は, 横ばい傾向または緩やかな向上傾向にあるが, 体力水準の高かった昭和60年頃と比較すると, 依然として低い水準にあると報告されている。また, 体力の高い子どもに大きな変化はみられないが, 低い子どもの体力が以前より一層低下しており, 体力の二極化が深刻な問題となり(加賀谷, 2008), 平川ら(2008)は特に女子で顕著であると報告している。佐久本ら(1979)は, 運動や体育に対して非好意的, あるいは消極的態度を持つ, いわゆる「運動嫌い・体育嫌い」がある一定の比率で存在していると指摘している。こうした「運動嫌い・体育嫌い」(以下: 運動・体育嫌い)は男子よりも女子に多くみられることや(吉川, 2012), 1週間の総運動時間が60分未満である児童の割合が, 男子は6.4%であるのに対し, 女子は11.6%であると報告されている(スポーツ庁, 2017)ことから, 運動離れの問題は男子よりも女子の方がより深刻であるといえる。

運動・体育嫌いを発生させる要因は, 運動能力の低さに対する劣等感, 運動有能感の不足, 体育授業における精神的・肉体的苦痛, 教師の指導に対する強い不満であると報告されている(波多野, 1981; 竹岡, 2002)。また, 女子の運動に関わる身体的有能さの認知と統制は男子よりも低い傾向にある(岡沢ら, 1996)。さらに, 男子は厳しく自由を拘束される体育授業を嫌う傾向にあるが, 女子は運動能力差が目立つ体育授業を極端に嫌う傾向にあることが報告されている(兵頭ら, 1992)ことから, 運動および体育授業に対する意識に関して男女で

違いがあることが考えられる。これらのことから、運動・体育嫌いの要因には、女子特有のものがあ、さらに体力特性によっても違いがみられることが予想されるが、運動・体育嫌いの要因について、女子の体力特性に着目して分析した研究はあまりみられない。そこで、本研究では女子児童の体力特性と運動および体育授業に対する嫌悪感の関連を明らかにすることを目的とした。

II 研究方法

1) 対象者

G 県の公立小学校に通学する小学校 3 年生から 6 年生までの女子児童 181 名を対象とした。

2) 調査方法及び調査項目

運動・体育授業の好き嫌いに関する要因の先行研究（佐久本ら，1979；山下ら，2016；立木，1997）を参考とし，9 因子（身体，学校，家庭，地域，気候，友達，異性，価値観，興味）からなる運動および体育授業に関する 40 項目のアンケートを作成した。調査項目に関しては，5 段階評価（1. 全く当てはまらない，2. あまり当てはまらない，3. どちらとも言えない，4. 少し当てはまる，5. とても当てはまる）で回答を得た。

体力の調査は，新体力テスト実施要項に基づいて行なった。測定項目は握力，上体起こし，長座体前屈，反復横とび，20m シャトルラン，50m 走，立ち幅とびおよびソフトボール投げの 8 種目であった。

3) 分析方法

新体力テストの 8 項目をそれぞれ学年別で T スコア化し，8 項目の平均 T スコアを個人の体力総合得点とした。体力総合得点において上位 25% (45 名) を体力上位群，下位 25% (45 名) を体力下位群とし，これらを分析対象とした。女子児童の運動および体育授業に対する嫌悪感に関して，体力特性による違いを検討するため，体力上位群と体力下位群において対応のない t 検定を適用した。また，設問ごとに効果量(d)を算出し，上位群と下位群の意識の違いの大きさを比較した。なお，本研究の統計的有意水準はすべて 5% 未満とした。

Ⅲ 結果

表1は、運動および体育授業に対する嫌悪感について、体力特性による違いを検討した結果を効果量の大きい順に示している。

分析の結果、40項目中31項目で2群間に有意な差が認められ、いずれの項目においても下位群が上位群よりも有意に高い平均値の値を示した。よって、下位群は各設問に対してより強く「当てはまる」と思っていることが確認された。中でも、効果量の基準において「かなり高い」とされる0.8以上の値が示された設問は、「運動することに興味がない」($d=1.19$)、「優劣がつくからイヤだ」($d=1.15$)、「疲れるからイヤだ」($d=1.06$)、「病弱だから運動するのはイヤだ」($d=0.98$)、「運動能力が知れ渡るからイヤだ」($d=0.96$)、「上手くできないと仲間に怒られるからイヤだ」($d=0.94$)、「球技がイヤだ」($d=0.93$)、「恐怖心があるからイヤだ」($d=0.91$)、「暑さや寒さを感じるから運動するのはイヤだ」($d=0.90$)、「走ることがイヤだ」($d=0.90$)、「規律性を強要されるからイヤだ」($d=0.86$)、「運動以外に得意なことがある」($d=0.86$)、「評価されるのがイヤだ」($d=0.85$)、「仲間に気を遣うからイヤだ」($d=0.83$)、「勝敗や順序が生じるからイヤだ」($d=0.81$)であった。また、「運動することが馬鹿らしい」という設問では、上位群の児童全員が「全く当てはまらない」と回答したため、分析から除外した。

表1 運動および体育授業に対する嫌悪感の体力特性による違い

設問		体力上位群	体力下位群	p値(両側)	t検定	効果量(d)	因子
運動することに興味がない	平均 SD	1.044 0.208	2.222 1.396	0.000	**	1.193	興味
優劣がつくからイヤだ	平均 SD	1.333 0.769	2.778 1.622	0.000	**	1.151	学校
疲れるからイヤだ	平均 SD	1.222 0.517	2.489 1.632	0.000	**	1.058	身体
病弱だから運動するのはイヤだ	平均 SD	1.022 0.149	1.844 1.186	0.000	**	0.984	身体
運動能力が知れ渡るからイヤだ	平均 SD	1.178 0.576	2.311 1.593	0.000	**	0.957	友達
上手くできないと仲間に怒られるからイヤだ	平均 SD	1.200 0.505	2.244 1.510	0.000	**	0.938	友達
球技がイヤだ	平均 SD	1.356 0.743	2.489 1.576	0.000	**	0.930	学校
恐怖心があるからイヤだ	平均 SD	1.111 0.487	2.022 1.340	0.000	**	0.914	身体
暑さや寒さを感じるから運動するのはイヤだ	平均 SD	1.467 0.815	2.600 1.601	0.000	**	0.902	気候
走ることがイヤだ	平均 SD	1.333 0.905	2.556 1.713	0.000	**	0.902	学校
室内にいる方が好き	平均 SD	1.333 0.826	2.467 1.618	0.000	**	0.892	価値観
規律性を強要されるからイヤだ	平均 SD	1.178 0.442	2.089 1.443	0.000	**	0.863	学校
運動以外に得意なことがある	平均 SD	1.133 0.405	2.000 1.382	0.000	**	0.861	価値観
仲間に気を遣うからイヤだ	平均 SD	1.244 0.609	2.089 1.311	0.000	**	0.835	友達
評価されるのがイヤだ	平均 SD	1.356 0.679	2.378 1.585	0.000	**	0.848	学校
勝敗や順序が生じるからイヤだ	平均 SD	1.444 0.841	2.444 1.531	0.000	**	0.819	学校
スポーツ以外の習い事をしているから運動はしない	平均 SD	1.089 0.358	1.933 1.468	0.000	**	0.799	家庭
恥ずかしいから運動するのはイヤだ	平均 SD	1.178 0.576	1.978 1.323	0.000	**	0.793	友達
怪我をするからイヤだ	平均 SD	1.156 0.562	1.978 1.390	0.000	**	0.784	身体
汗をかきからイヤだ	平均 SD	1.089 0.358	1.778 1.223	0.000	**	0.773	身体
仲間から馬鹿にされるからイヤだ	平均 SD	1.289 0.895	2.289 1.618	0.000	**	0.773	友達
運動をする時間がない	平均 SD	1.778 1.259	2.689 1.621	0.004	**	0.635	家庭
頑張っている姿を見られるのがイヤだ	平均 SD	1.111 0.383	1.711 1.308	0.004	**	0.630	価値
自分のプレーが見られるからイヤだ	平均 SD	1.800 1.198	2.511 1.392	0.011	*	0.554	友達
近所に友達がいない	平均 SD	1.867 1.325	2.644 1.640	0.015	*	0.528	地域
男子の視線が気になるからイヤだ	平均 SD	1.400 0.915	1.889 1.112	0.025	*	0.486	異性
仲間外れになるからイヤだ	平均 SD	1.267 0.780	1.733 1.136	0.026	*	0.484	友達
兄弟・姉妹と運動する機会がない	平均 SD	2.044 1.445	2.778 1.622	0.026	*	0.483	家庭
服が汚れてしまうからイヤだ	平均 SD	1.133 0.405	1.511 1.079	0.031	*	0.469	身体
日焼けをするからイヤだ	平均 SD	1.289 0.787	1.800 1.375	0.033	*	0.461	身体
水泳がイヤだ	平均 SD	1.489 1.141	2.089 1.474	0.034	*	0.460	学校
親子で運動をする機会がない	平均 SD	2.556 1.486	3.156 1.637	0.072	n.s.	0.388	家庭
自分の体型が気になるからイヤだ	平均 SD	1.667 1.108	2.156 1.445	0.075	n.s.	0.384	身体
父親が運動をしない	平均 SD	1.756 1.048	2.244 1.510	0.078	n.s.	0.380	家庭
母親が運動をしない	平均 SD	2.844 1.461	3.400 1.498	0.078	n.s.	0.380	家庭
近所に運動をする場所がない	平均 SD	1.667 1.066	2.022 1.422	0.183	n.s.	0.286	地域
髪が乱れてしまうからイヤだ	平均 SD	1.178 0.650	1.378 0.912	0.234	n.s.	0.255	身体
月経があるから運動するのはイヤだ	平均 SD	1.422 0.941	1.578 1.055	0.462	n.s.	0.157	身体
グループ化があるからイヤだ	平均 SD	1.622 1.134	1.622 1.114	1.000	n.s.	0.000	友達
運動することが馬鹿らしいと思う※	平均 SD	1.000 0.000	1.489 0.991	-	-	-	価値観

*:p<0.05,**:p<0.01,n.s.:non significant

※:この設問は、体力・運動能力上位群において回答結果に差がでなかったため、分析から除外した。

IV 考察

運動および体育授業に対する嫌悪感について、40 項目中 31 項目で有意な差が認められたことから、女子児童は体力特性によって嫌悪感に違いがあることが推察された。

「運動することに興味がない」、「室内にいる方が好き」、「運動以外に得意なことがある」の設問で有意な差が認められた。女子は男子に比べ、身体活動を行うことの負担を強く知覚していること（上地ら、2003）や、外遊びよりも室内での談笑や読書などを好むこと（高橋・西田、2012）が報告されている。これらのことから、運動能力の低い女子児童ほど運動および体育授業に対する関心が低いことが裏付けされた。

また、「疲れるからイヤだ」、「病弱だから運動するのはイヤだ」、「恐怖心があるからイヤだ」、「ケガをするからイヤだ」の設問で有意な差が認められたことから、運動能力の低い女子児童ほど、運動そのものに対して嫌悪感を抱いていると考えられる。杉原（2003）は、運動や体育を嫌いになるきっかけとして最も多いものは、苦痛回避動機などの感情の一つである、恐怖に関するものであると報告している。これらのことから、体育授業における体力的苦痛や精神的苦痛が、運動に対する恐怖や嫌悪感をより強めるのではないかと考えられる。

「優劣がつくからイヤだ」、「球技がイヤだ」、「走ることがイヤだ」の設問で有意な差が認められ、効果量は大きかった。兵頭ら（1992）は、女子は運動能力差が目立つ授業を極端に嫌うと報告している。走ることは「速い」、「遅い」が友達に知られ（荒井ら、2003）、球技は、技能レベルの高い一部の生徒にゲームが独占され、実際にゲームに参加できていない生徒が多いと指摘されている（内山、2006）。これらのことから、運動能力の低い児童ほど、周りの人との能力差が明らかになることや、そうなりやすい種目である走ることや球技に、より強い嫌悪感を抱いていると考えられる。これらに加えて、「運動能力が知れ渡るからイヤだ」、「上手くできないと仲間に怒られるからイヤだ」、「仲間に気を遣うからイヤだ」、「恥ずかしいから運動するのはイヤだ」、「仲間からバカにされるからイヤだ」、「自分のプレーが見られるからイヤだ」の設問で有意な差が認められたことから、運動能力の低い女子ほど、周囲の友達の視線や友達からの評価を気にする傾向にあることが示唆された。井出は（2014）は、運動が苦手な児童は運動有能感が低く、自分にはできないと思っていると指摘しており、田島ら（2013）は、女子の運動有能感の低さが、体育授業における劣等感を生むと報告している。波多野ら（1981）は、劣等感を感じている子どもほど、運動場面において特に失敗することを恥ずかしく感じ、運動に対する食わず嫌いを起こす者が多いと指摘している。そのため、周囲の友達に運動能力がはっきり知られてしまうことや、運動が上手くできないことで恥ずかしい思いをすることが、運動に対するより嫌悪感を強めていると考えられる。したがって、こうした児童が運動の楽しさを味わい、積極的に参加できるような運動指導や授業が行われる必要があると推察される。児童の運動有能感を高める授業実践は、様々な運動領域で行われている（水谷・岡澤、1999；岡澤・徳田、1999）。中でも、個人スポーツの集団ゲーム化の工夫を行うことは、児童同士で教え合い、励まし合いながら取り組める場が

生まれ、運動有能感を高めることができる」と報告されている。(水谷・岡澤, 1999)。さらに三浦(1970)は、6~8人の小グループの中では、自分の体力や技能に対して恥ずかしさの抵抗は少ないと指摘している。これらのことから、グループに分かれて活動することは、児童の運動に対する嫌悪感を軽減し、運動有能感を高めるために有効であると考えられる。しかし、グループ編成において、運動能力の優劣が気にならないことや、児童同士の間関係を考慮することが必要であると推察される。

「評価されることがイヤだ」の設問で有意な差が認められた。小学校学習指導要領総則(文部科学省, 2017)では、学習評価は子どもたちの学習状況を評価するものであるが、子どもたち一人一人の応じた指導を充実させるために、教師が自らの指導を振り返り、指導の改善に生かしていくことが特に大切であるとされている。その一方で、体育授業においてできないことを評価されることは、劣等感にネガティブな影響を与えると報告されている(波多野ら, 1981)。加えて、教師による承認・否認の評価が、被評価者の運動意識に与える影響は大きい(栗本, 1968)ことから、体育授業における学習評価が子どもの運動・体育嫌いを助長する可能性があると考えられる。

また、「暑さや寒さを感じるから運動するのはイヤだ」の設問で有意な差が認められたことから、運動能力の低い女子児童ほど、気候や気温によって運動意欲が低下することが示唆された。

一方で、「親子で運動をする機会がない」、「父親が運動をしない」、「母親が運動をしない」の設問で有意な差は認められなかった。長野ら(2018)は、親の運動実施状況ではなく、運動嗜好が子どもの体力に関連していると報告している。そのため、本研究においても体力特性と親の運動実施状況に関連がみられなかったと考えられる。また、「自分の体型が気になるからイヤだ」、「髪が乱れてしまうからイヤだ」、「月経があるからイヤだ」、「友達との間でグループ化があるからイヤだ」の設問で有意な差は認められなかったことから、女子児童は運動中の体型や髪の乱れなど身体的なことや、グループ化に関して、体力特性に関係なく、あまり嫌悪感を感じていないと考えられる。

V まとめ

本研究では女子児童の体力特性と運動および体育授業に対する嫌悪感の関連を明らかにすることを目的とした。対象は、小学校3年生から6年生までの女子児童181名であった。新体力テストの8項目をそれぞれ学年別でTスコア化し、8項目の平均Tスコアを個人の体力総合得点とした。体力総合得点において上位25%(45名)を体力上位群、下位25%(45名)を体力下位群とし、これらを分析対象とした。運動および体育授業の意識や嗜好の調査については、5段階評価を用いてアンケートを行った。分析の結果、40項目中31項目で有意な差が認められ、その中でも「疲れるからイヤだ」、「運動に興味がない」、「優劣がつくからイヤだ」、「自分の能力が知られるからイヤだ」、「上手くできないと仲間に怒られるからイヤだ」などの項目で下位群が上位群より強い値を示していた。運動能力の低

い女子児童ほど、優劣が明らかになることや、上手くできずに恥ずかしい思いをすることに強い嫌悪感を感じていることが考えられるため、周りとの運動能力差が目立たず、周りの友達からの視線が気にならないような運動指導や体育授業の工夫が必要であると考えられる。

VI 引用参考文献

- 荒井迪夫, 周東知好 (2003) 運動嫌いに関する一考察. 淑徳短期大学研究紀要, 42 : 17-31.
- 波多野義郎, 中村精男 (1981) : 「運動嫌い」の生成機序に関する事例研究, 体育学研究, 26 : 117-187.
- 兵頭寛, 河野昭 (1992) 体育嫌いを生起させる要因の研究—体育授業における教師行動について—. 愛媛大学教育学部紀要, 17 : 159-165.
- 平川和文, 高野圭 (2008) : 体力の二極化進展において両極にある児童生徒の特徴, 発育発達研究, 37 : 57-67.
- 出井雄二 (2014) 運動が苦手な小学校高学年児の体力・運動能力の実態—運動有能感と体力・運動能力の関係から—. 明治学院大学心理学紀要, 24 : 47-62.
- 井上寛崇・岡澤祥訓・元塚敏彦 (2008) : 体育授業における運動有能感を高める工夫が運動意欲および楽しさに及ぼす影響に関する研究, 奈良実践総合センター研究紀要, 17 : 103-111.
- 加賀谷淳子 (2008) ここまで危ない! 子どもの体力—提言「子どもを元気にするための運動・スポーツ推進体制の整備」. 体育科教育, 56 (11) : 14-18.
- 春日晃章, 中野貴博, 小栗和雄 (2017) : 発育発達期における女子の運動、スポーツ離れに関する基礎研究—女子が進んで取り組むためには何が必要なのか?—, 笹川スポーツ財団 : 223-229.
- 栗本関夫, 吉儀宏 (1968) 外向性及び内向性者の運動学習に及ぼす“けなし”と“おだて”の効果. 体育学研究, 12 (5) : 257.
- 三浦弓杖 (1970) 運動嫌いの学生の指導. 体育の科学, 20 (5) : 301-303.
- 水谷雅美, 岡澤祥訓 (1999) 運動有能感を高める走り幅跳びの授業実践—個人スポーツの集団ゲーム化—. 体育科教育 47 (9) : 68-71.
- 文部科学省 (2015) 小学校学習指導要領解説 総則編 (抄).
- 長野真弓, 足立稔 (2018) 親の運動嗜好と子どもの体力との関連性の検討. 発育発達研究, 78 : 24-34.
- 岡澤祥訓, 北真佐美, 諏訪祐一郎 (1996) 運動有能感の構造とその発達及び性差に関する研究, スポーツ教育学研究, 16 (2) : 145-155.
- 岡澤祥訓, 徳田直子 (1999) 運動有能感を高める集団マットの授業実践. 体育科教育 47 (11) : 54-56.

- 佐々木万丈, 須甲理生(2016): 体育授業に対する劣等コンプレックスの因子的概念と児童生徒の主体的要因との関連, 体育学研究, 61: 663-680.
- 杉原隆(2003) 運動指導の心理学—運動学習とモチベーションからの接近—. 大修館書店: 142-156.
- 佐久本稔, 篠崎俊子(1979) 学校体育期の“運動嫌い”に関する研究(I). 生活科学, 12(1): 55-78.
- スポーツ庁(2017) 平成29年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査結果報告書. : 3-5.
- 立木正(1997) 体育嫌いを生み出す原因に関する研究—東京学芸大学生の意識調査から— 東京学芸大学紀要, 5(49): 191-201.
- 高橋幸一, 西田順一(2012) 児童の身体活動および座位活動がメンタルヘルスに及ぼす影響—性と身体活動行動変容段階を考慮した検討—. 群馬大学教育学部紀要, 47: 109-124.
- 竹岡伸一, 賀川昌明(2002): 小学校高学年児童の体育授業に対する好感度を決定する要因分析とその対処法に関する研究. 鳴門教育大学学校教育実践センター紀要, 17: 159-165.
- 田島宏一, 小野恭子(2013) 小学校体育科における児童の意識調査と男女共修の意義. 東京学芸大学附属学校研究紀要, 40: 103-112.
- 上地広昭, 竹中晃二, 鈴木英樹(2003) 子どもにおける身体活動の行動変容段階と意思決定バランスの関係. 教育心理学研究, 51: 288-297.
- 内山治樹(2006) なぜ「サポートプレイ」に着目してゲームを構成するのか—バスケットボールを中心に—. 体育科教育, 54(6): 28-31.
- 吉川麻衣, 山谷幸司, 笹生心太(2012) 「運動嫌い」「体育嫌い」の実態と発生要因に関する研究—小学生・中学生・高校生における「運動嫌い」と「体育嫌い」の関連性に着目して—. 仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集, 13: 107-115.